

平成30年度

みやぎ心のケアフォーラム

東日本大震災後7年間の
心のケアの実践と今後に向けて
～それぞれの地域にある課題
から見えてくるもの～

平成30年10月26日

みやぎ心のケアセンター

山崎 剛



まとめ

- (1) みやぎ心のケアセンター
(通称コケセン)について
統計から見た地域課題
- (2) 事例から見た地域課題
- (3) コケセンから見た地域課題
のまとめ

(1) みやぎ心のケアセンター
(通称コケセン)について
統計から見た地域課題

みやぎ心のケアセンターの特徴

(1) 東日本大震災後設立された期間限定組織

① 2011年度から2020年度まで、約10年間

② 2021年度以降の存続有無は県が検討中

(2) 職員は多職種により構成

職域を超えて、チームにより支援活動を実施

(3) 市町の保健福祉部門を窓口 to 被災地支援

(4) 被害の大きな市町に出向職員を派遣

(5) 「子どもから大人まで切れ目のない支援」

みやぎ心のケアセンターの体制



● 気仙沼地域センター
(気仙沼市・
南三陸町)
共に2012年4月設立

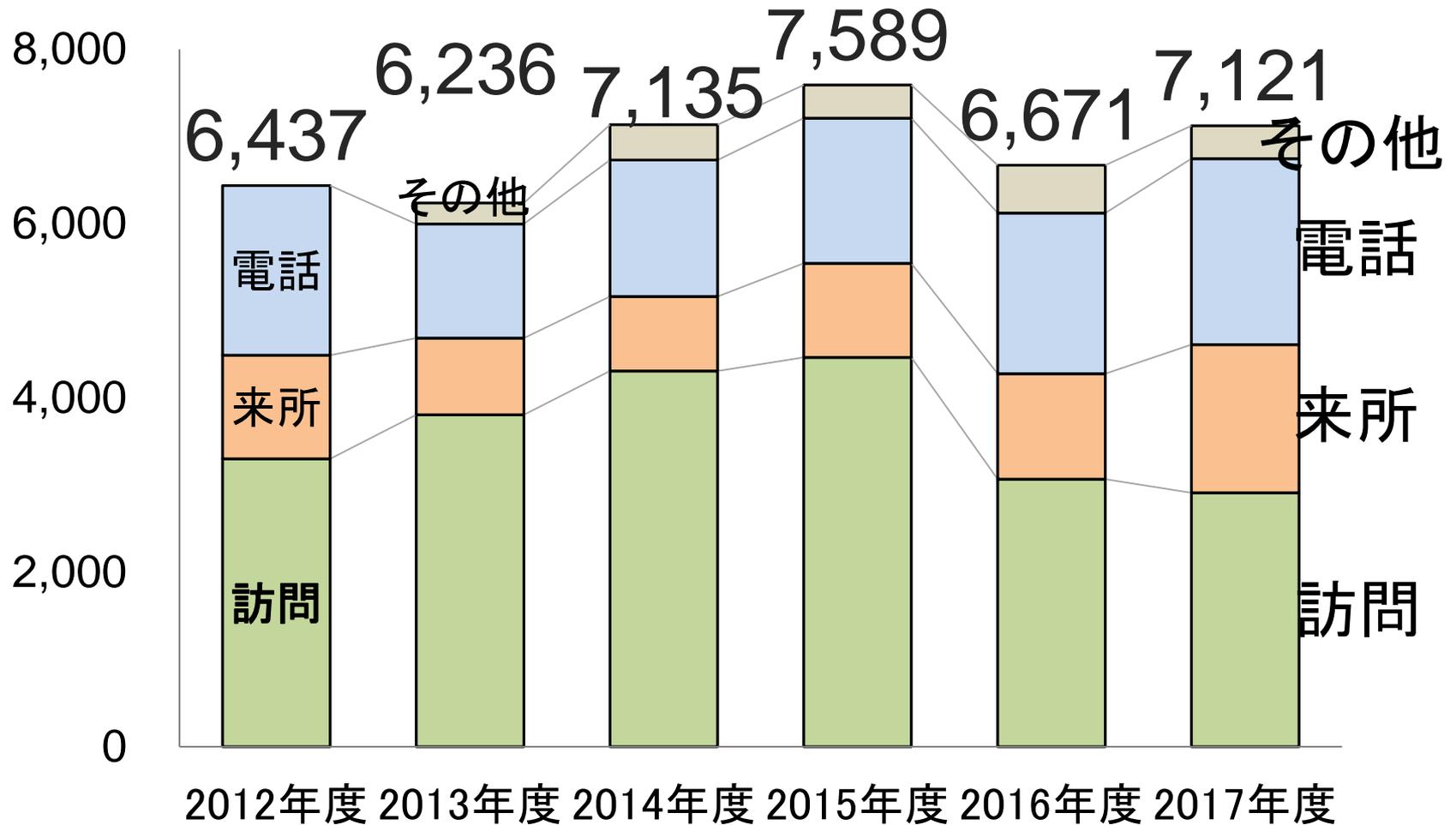
● 石巻地域センター
(石巻市・東松島市
女川町)

● 基幹センター
(塩釜地区、岩沼地区
及び内陸部)
基幹は2011年12月設立

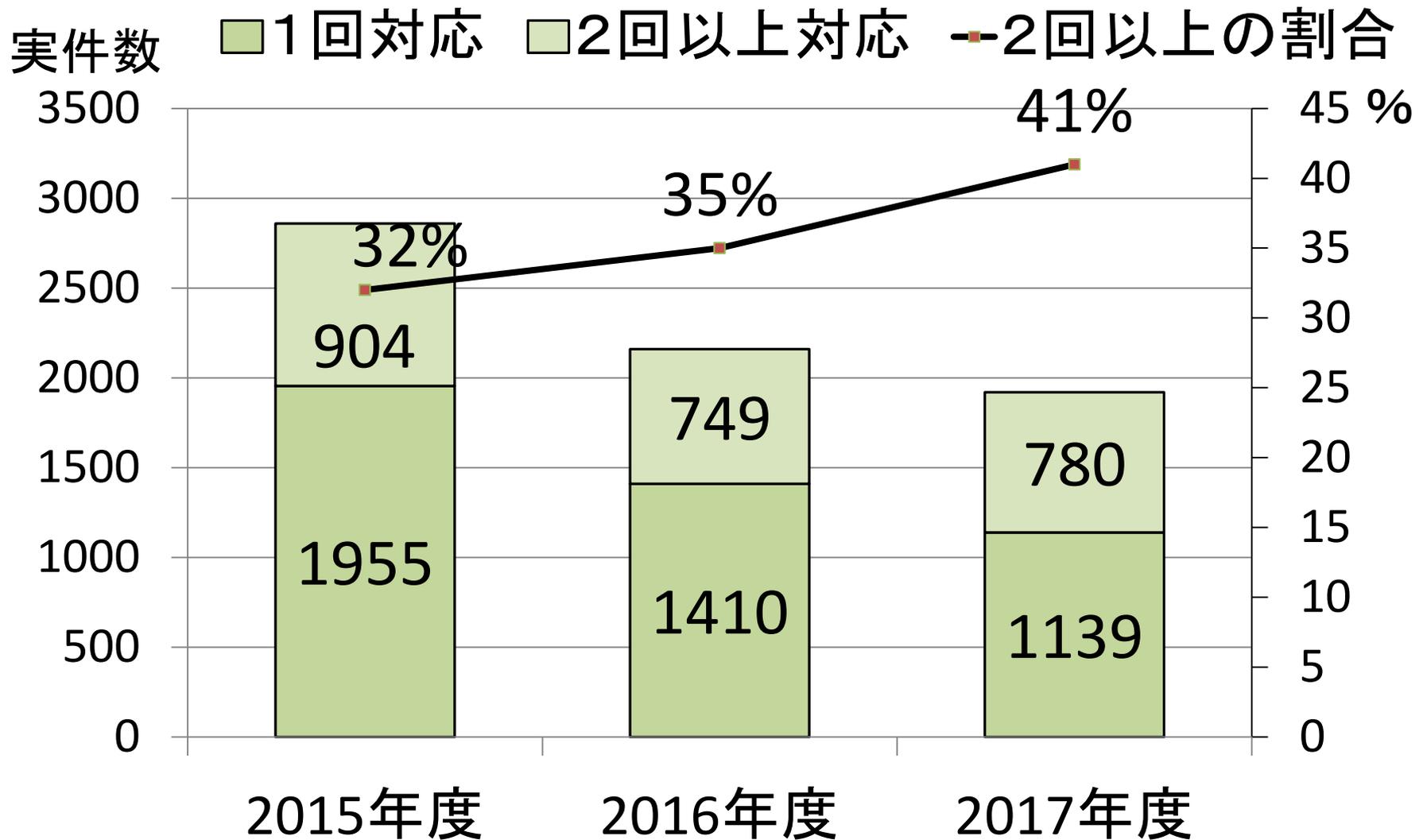
地域住民支援

支援対応 延べ件数

(単位:件)

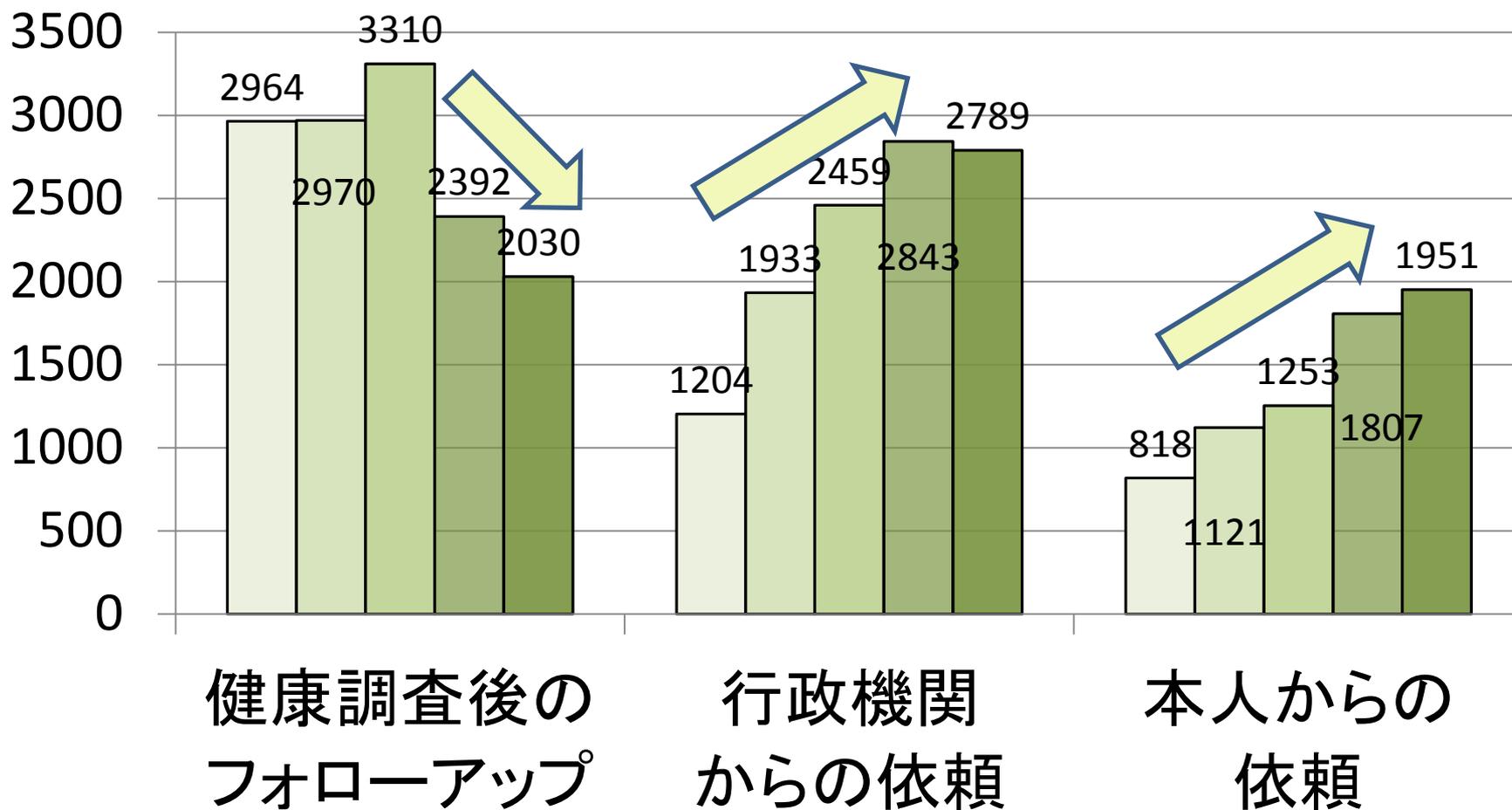


支援対応実人数の年度推移



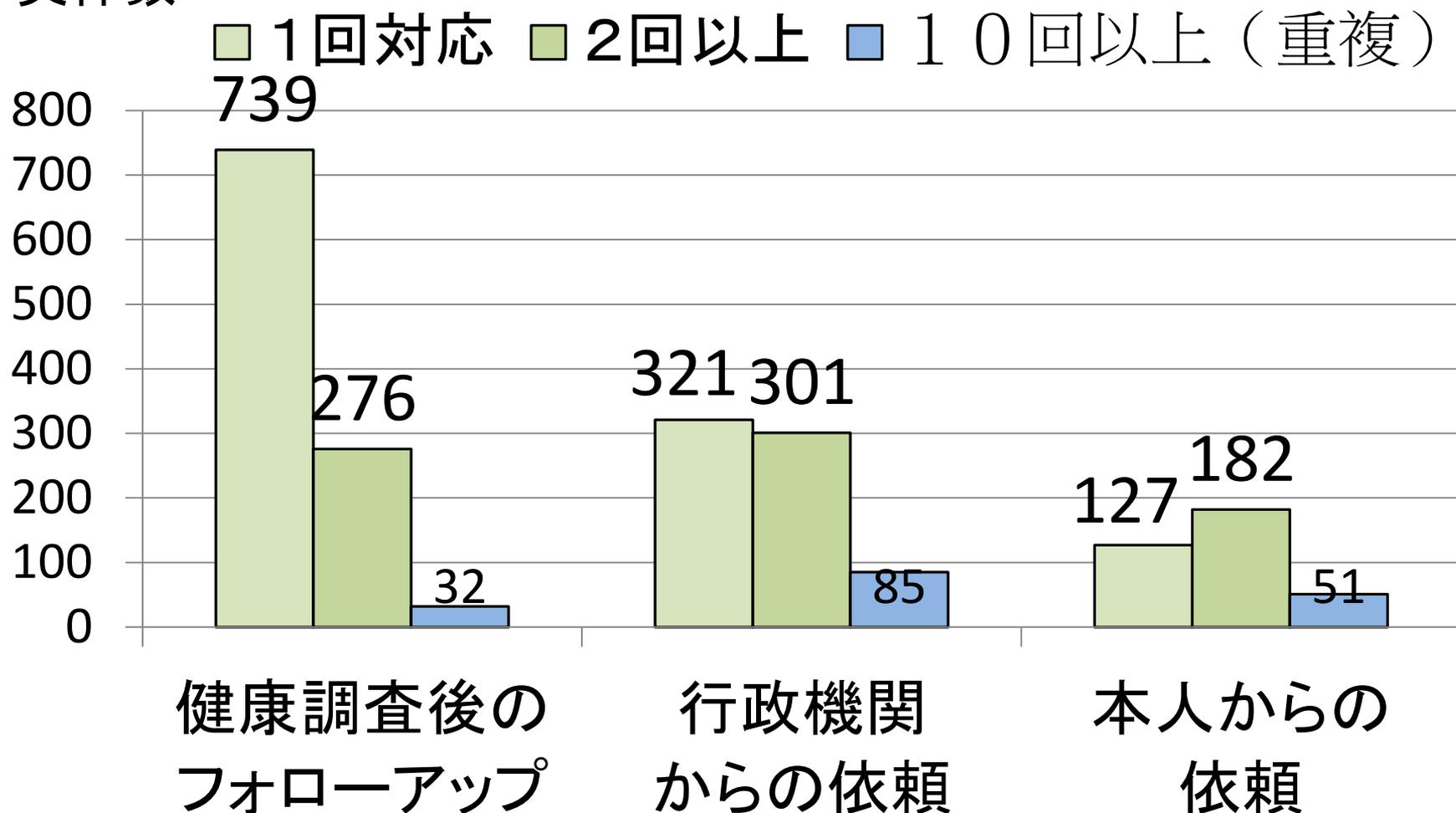
相談経路別相談延件数(上位3項目)

延べ件数 □ 2013年度 □ 2014年度 □ 2015年度 □ 2016年度 □ 2017年度



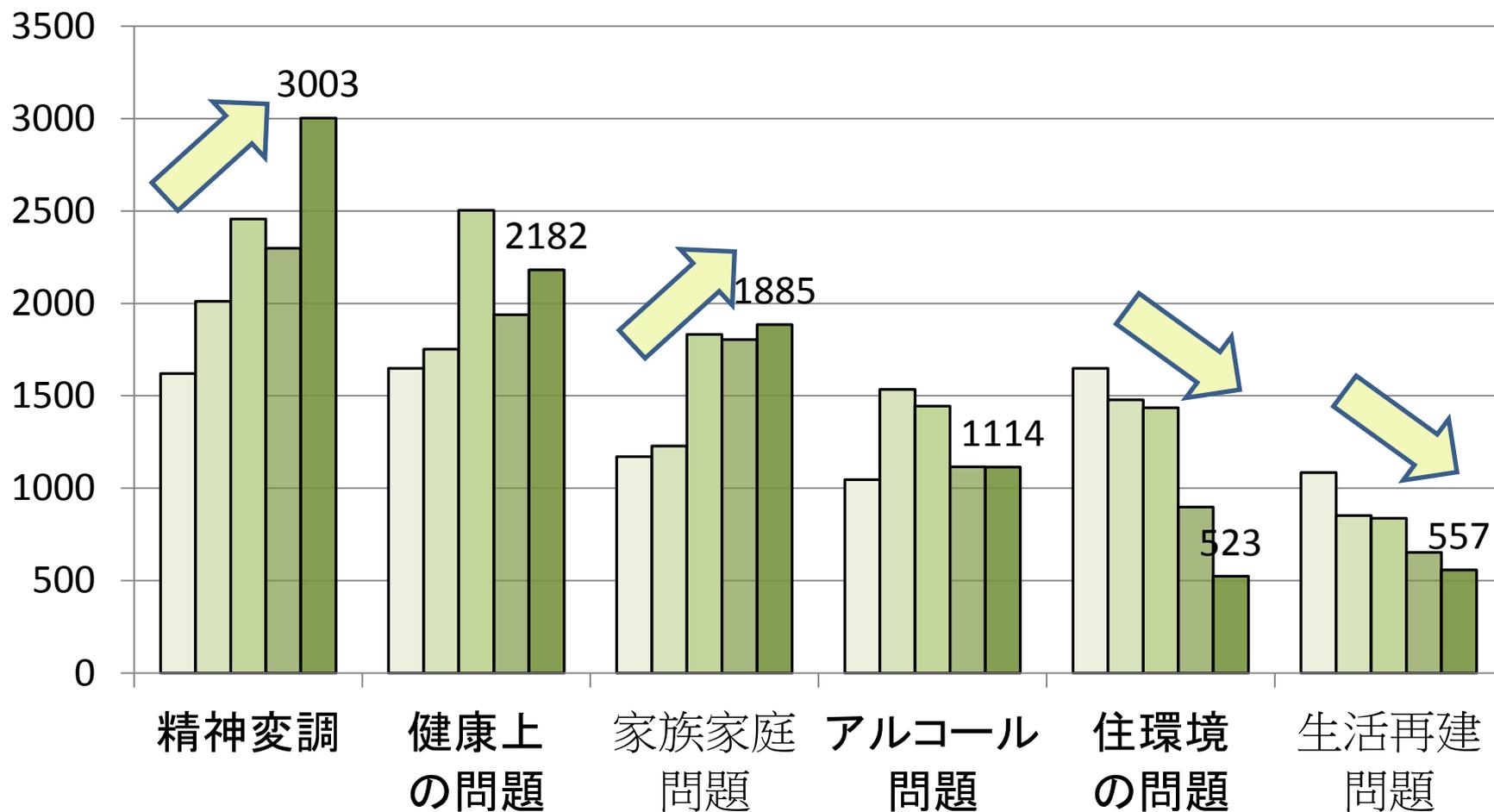
相談経路別対応回数別実件数 (2017年上位3項目)

実件数

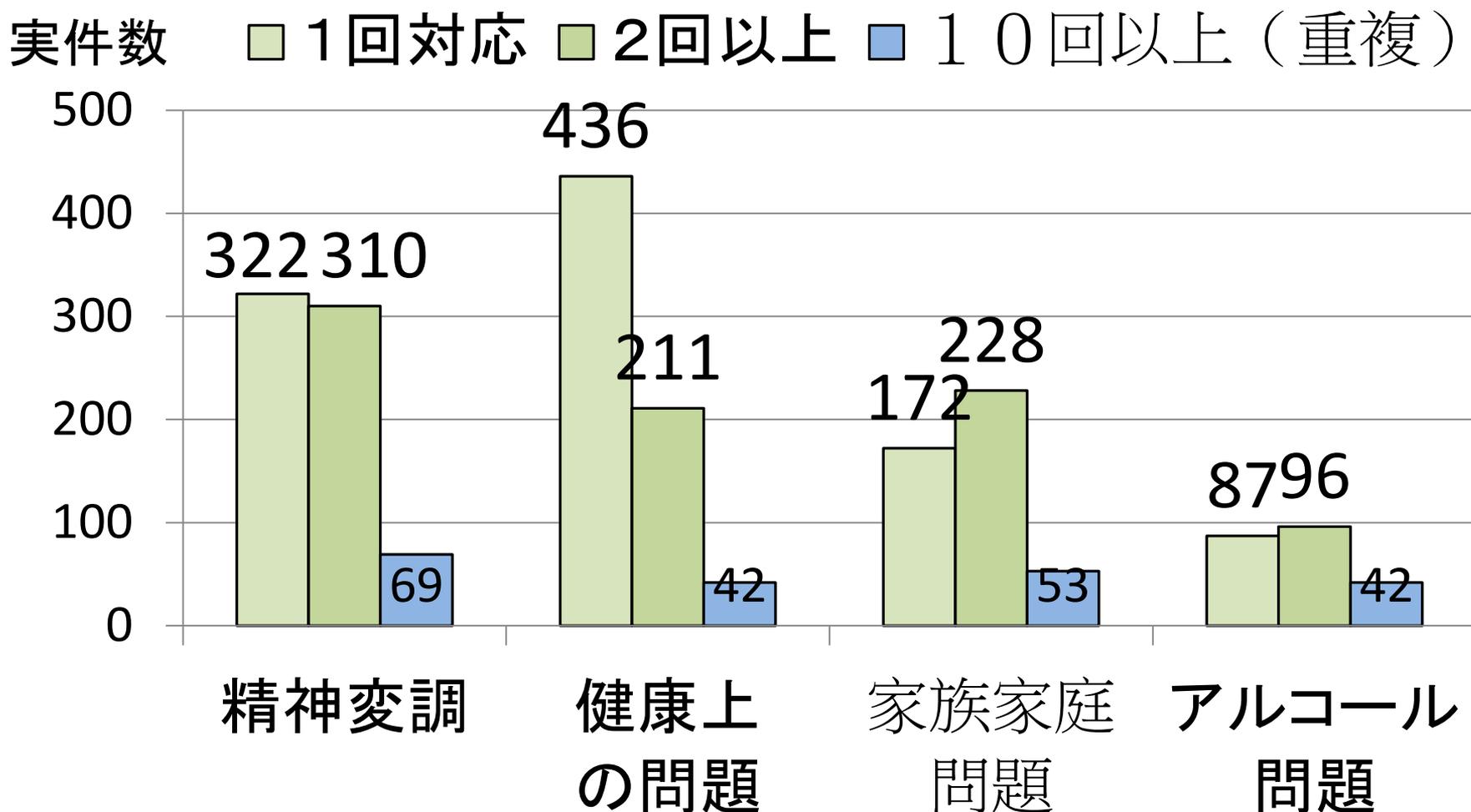


相談の背景別相談延件数(上位6項目)

延べ件数 2013年度 □ 2014年度 □ 2015年度 □ 2016年度 ■ 2017年度



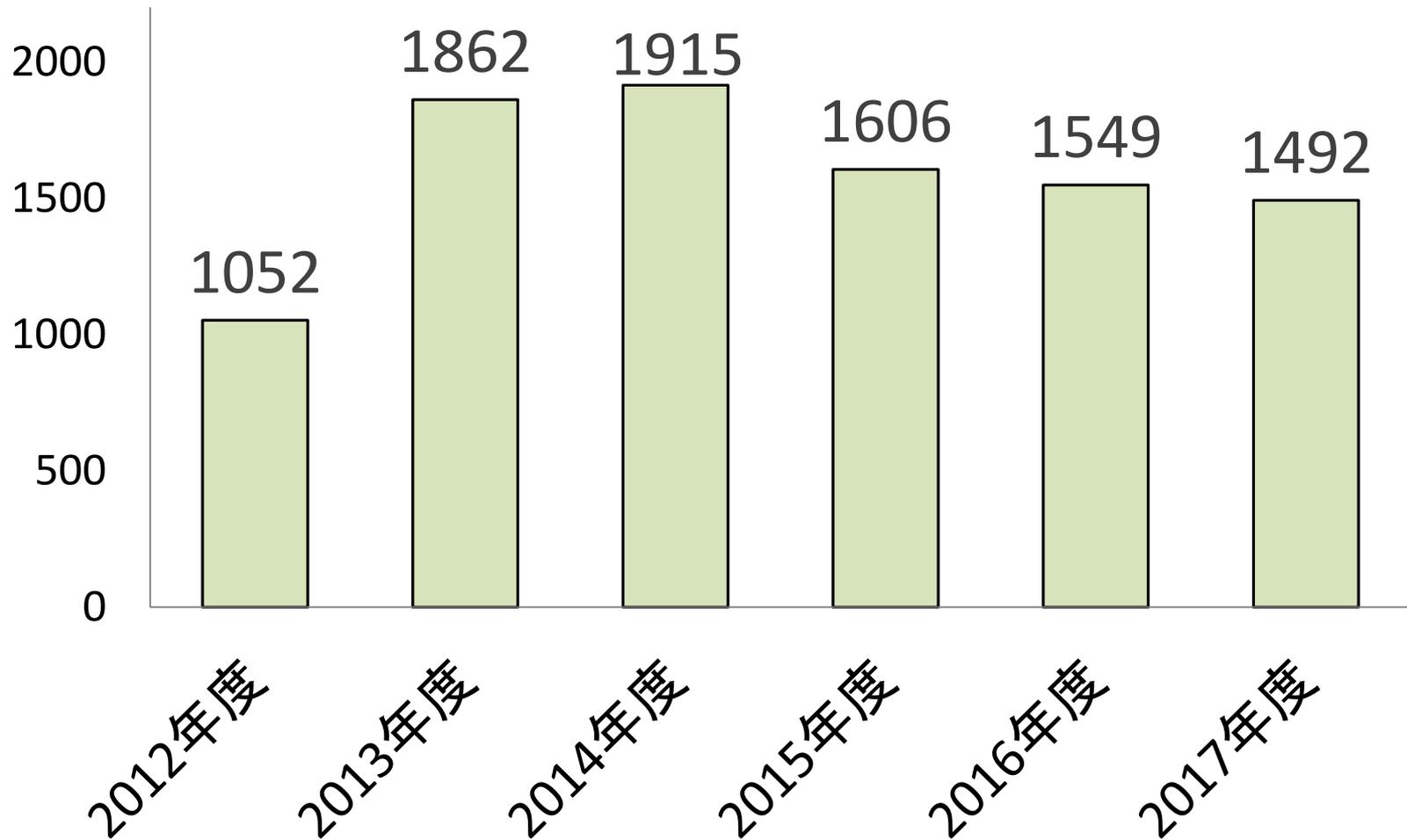
相談背景別対応回数別実人数 (2017年度上位4項目)



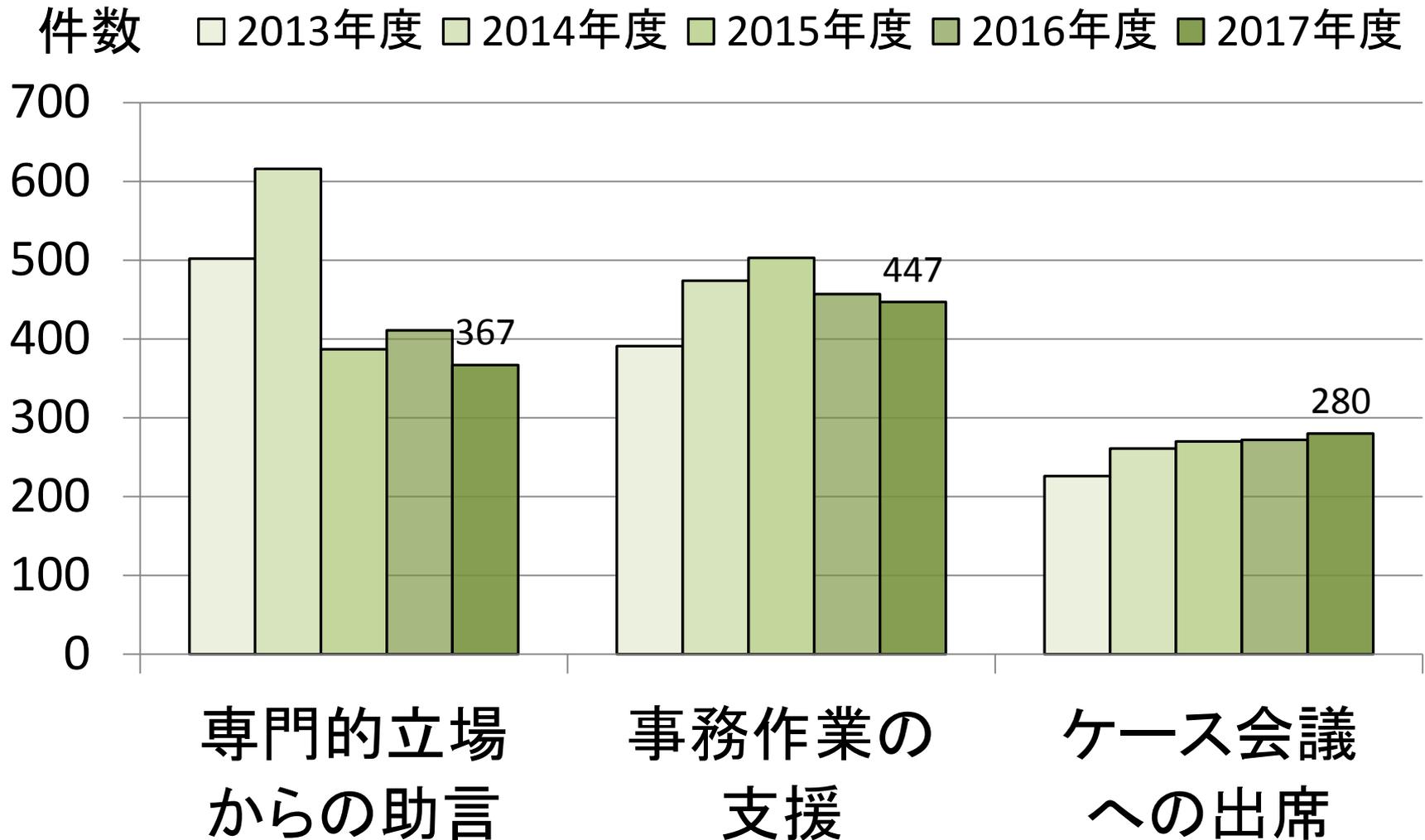
支援者支援

実施件数の推移

(単位:件)



支援者支援業務内容(上位3項目)

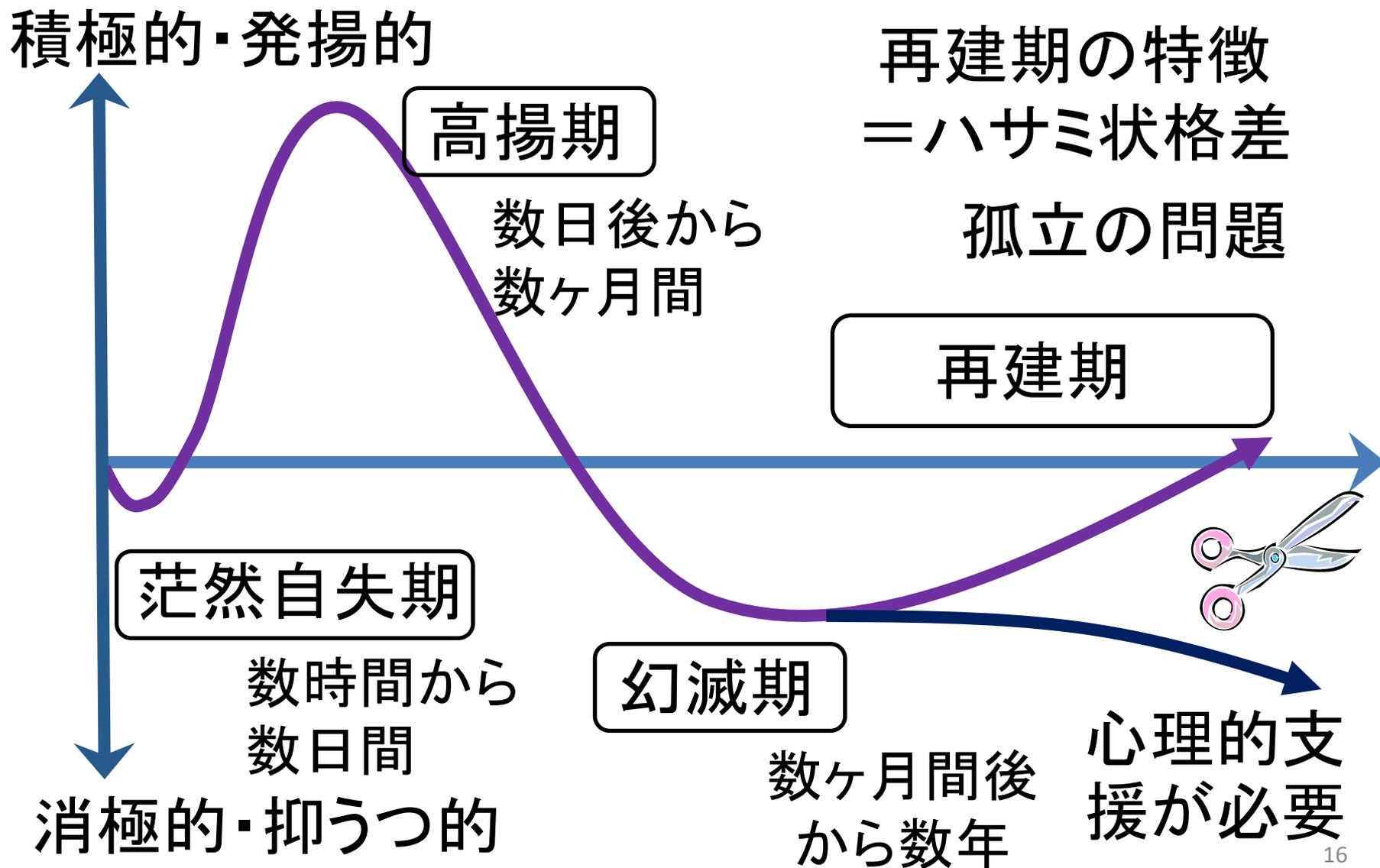


(2) 事例から見た地域課題

発災後中期の事例

- (1) 事例1: 家族を亡くして懸命に生きてきた。生活が落ち着いてきてかえって辛くなってきた。しかし、時間がたつにつれて、辛い気持ちを話しづらくなった。
- (2) 事例2: 仮設住宅から復興公営住宅に移ったが、人と話すことが少なく、寂しさが募っている。

被災者の一般的心理的反応経過

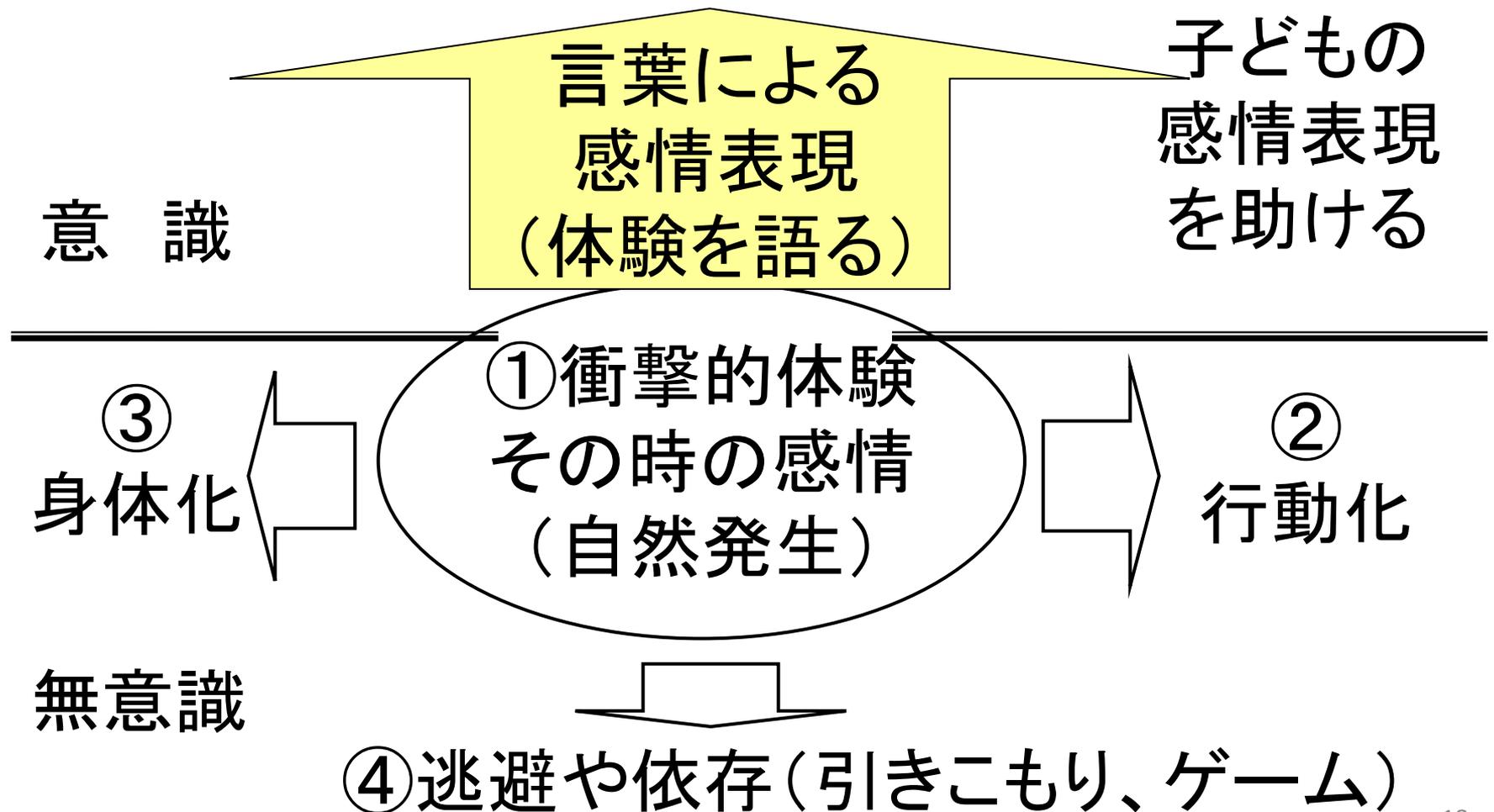


子どもの事例

- (1) 事例3: 震災の時、学校で津波被害に遭った。大人が流されて亡くなっていくのを見た。避難所、仮設住宅から学校まで、がれきの道を通るのは辛かった。これらのことを、震災から5年たってようやく話せるようになった。人に話せたら気持ちが悪くなった。
(出典:「16歳の語り部」、ポプラ社)

衝撃的体験後：子どもの感情の表れ方

⑤ 共感的に傾聴されること



(3) コケセンから見た 地域課題のまとめ

地域精神保健福祉：行政機関とコケセン

一次(身近)

直接相談

普及啓発

二次(広域)

複雑事例

SV等

三次(全県)

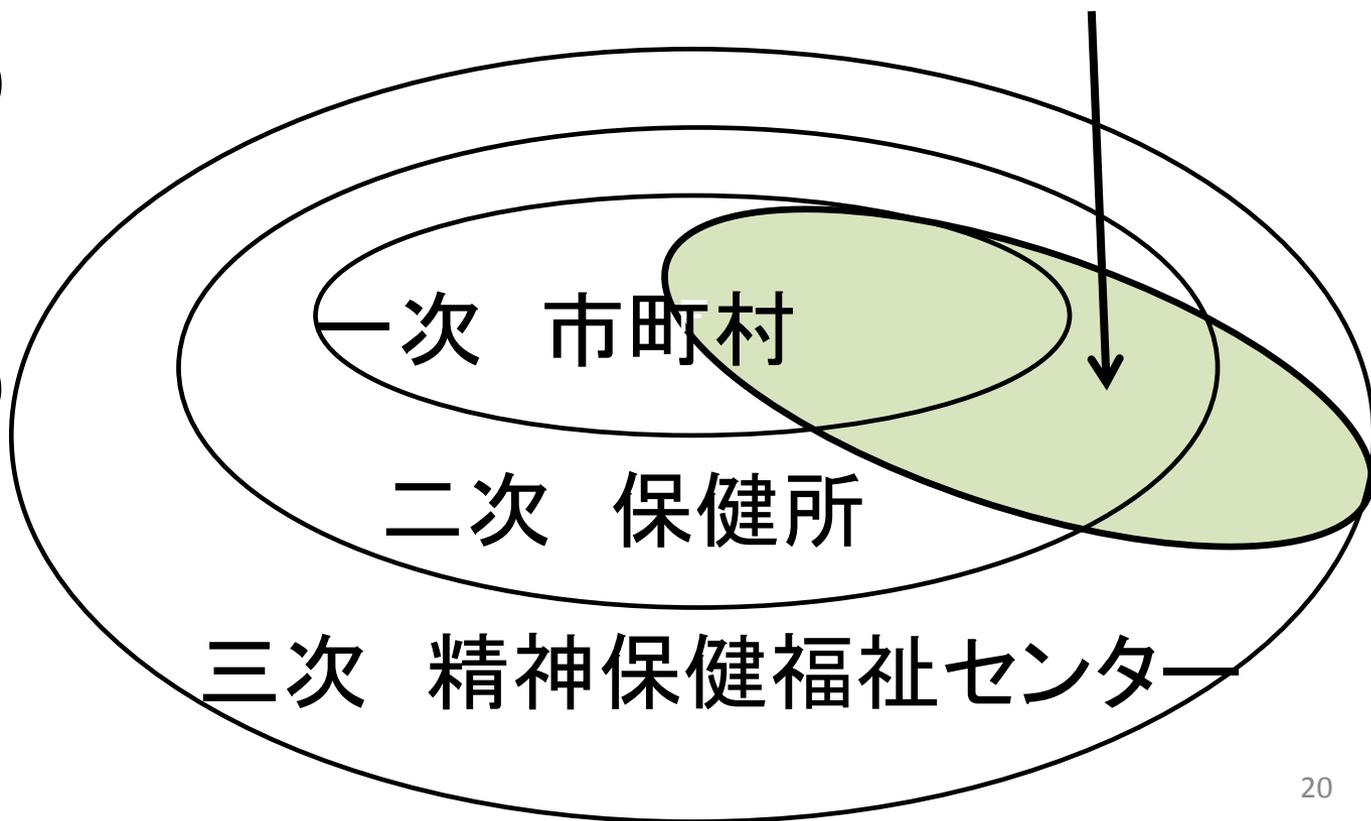
複雑事例

SV

研修等

コケセン：一次から三次まで
で依頼により対応→

行政機関に返していく



コケセンから見た地域課題まとめ(1)

(1) 複雑・対応困難事例の対応

① 市町村の相談体制作り

(被災者支援から通常業務へ)

② 県(保健所、精神保健福祉センター)の支援体制

③ 多問題家族への支援→多機関連携、連携の調整技術の向上

④ ケース会議の充実(アセスメント、対応、コンサルテーション等)

コケセンから見た地域課題まとめ(2)

(2) アルコール問題に対する対応

- ① 普及啓発・・・紙芝居等による啓発の工夫、
アルコールパッチテストによる心理教育
- ② 特定健診における γ -GTPによる介入→
早期介入により検診結果の改善
- ③ 節酒指導による早期介入
- ④ 医療機関との連携(市町、保健所、内科、精神科等)

コケセンから見た地域課題まとめ(3)

(3) 職員不足、職員のメンタルヘルス

①職員相談

②市町からの要望：保健師を県から派遣して欲しい

③精神保健福祉士の採用

(4) 子どもの問題への対応

①子どもの特徴を理解し、長期的視点が必要

②福祉、教育等、関係機関の連携：例：気仙沼管内
精神保健医療福祉連絡会議ワーキンググループ

③子どもは家族の影響を受けやすい→親支援

ご清聴
ありがとう
ございました。

